

## 2019 事故防止・経験交流集会 開催報告

教遭委員 伊東春正 (かがりび山の会)

今年も事故の共有化・再発防止と各会交流を趣旨として、11月9・10日に教育遭難対策委員会主催で交流会を開催した。

今回も、富津市民の森で開催し、6会から27名の参加があった。

1日目は、まず千葉県連の事故状況を報告した。

今年は、11件の事故が発生しており、そのうち、転倒事故、マダニ被害および落雷事故を取り上げ、注意勧告した。

次に昨年、全国連組織部が実施したアンケートで、会運営で困っている事として、教育体制・指導者の不足が42%と高かったため、「登山技術・経験の習得」をディスカッションテーマとして取り上げた。船橋勤労者山の会が昨年実施した「新人育成プログラム」の報告と、各会の取り組み状況を発表したが、どの会も会員集めと獲得後の教育には、苦勞しているようである。

国際山岳看護師の講演では、「山岳医療活動の事例から学ぶ安全登山」をテーマに、現場で体験した事例紹介が興味深かった。

夕食・交流会では、場所をキャンプ場に移し、食事しながら各会の交流を図った。参加人数が例年より少ない分、全員が発言できてよかったのではないかと思われる。

2日目は事例研究とそれに伴う実習を行った。

事例研究では、残雪期の単独行で道に迷って5日間ビバークして生還したケースを、3班に分かれてディスカッションを行った。登山計画のあまき、慣れた山域での油断、ココヘリの携帯などが指摘された。

実習は、事例に即した内容を教遭委員の指導で班ごとに実施した。

①地形図とコンパスを使って下記を練習。

- ・目的地の方向を知る
- ・遠くに見える山を地図で確認する
- ・現在地を地図で確認する

②スマホ地図 S/W (ジオグラフィカ) で現在地を確認し、緯度・経度をメールすることを行った。

③ツェルトによるビバーク方法では、ただ被るだけ、ストックを使った設営、立ち木でロープを使った設営の3点を行った。

以上、天候に恵まれ予定していたプログラムはすべて実施できたが、参加者からの感想の中に要望・改善要求も寄せられているので、次年度にむけ検討していきたい。

〈交流会開会挨拶〉



〈国際山岳看護師の講演〉



〈夕食・交流会〉



〈事例研究発表〉



〈実習〉



〈集合写真〉

## 参加者の感想（抜粋）

- ・ 事故報告では、傷害レベル（軽傷・重傷など）の集計があったほうが、分析しやすい。
- ・ 登山技術・経験の習得について、各会の取り組み状況の生の声が聞け質問できるのは交流会ならではの事、今後も継続して同様のディスカッションができれば良い
- ・ 事例研究では、登山計画書を作成することの重要性（どのタイミングでルート変更するか、引き返すかの事前確認）を再認識した。
- ・ 実習は、やはり、短いコースでも実際の山の中で、おこなうのが良いと感じた。ほとんどの人は、ツェルトをもっていくが今まで使ったことがないというのに驚いた。
- ・ 研修と宿泊場所が、移動しなくても良い同じ場所が良い、日帰りで開催し易い場所と時間の再考をお願いします。
- ・ 各山岳会の考え方の違いや共通課題を学ぶことが出来、大変興味深い交流会でした。
- ・ 参加人員が年々減少気味と思われる。各会の教育委員にもっと協力してもらって参加者が増えるようにできないのだろうか？

## 講習会を、講習会で終わらせず

## 学んだ事を山行で活かして下さい